

平成 30 年度

# 学校法人九州美容専門学校

自己点検・評価報告書

## 目次

### 自己点検及び評価項目

- 【 基準1 教育理念・目標 】
- 【 基準2 学校運営 】
- 【 基準3 教育活動 】
- 【 基準4 就学成果 】
- 【 基準5 学生支援 】
- 【 基準6 教育環境 】
- 【 基準7 学生の受け入れ募集 】
- 【 基準8 財務 】
- 【 基準9 法令等の遵守 】
- 【 基準10 社会貢献、地域貢献 】

### 評価基準の設定

評価基準（ 適切・・・4    ほぼ適切・・・3    やや不適切・・・2    不適切・・・1    ）

## 自己点検及び自己評価結果

### (1) 教育理念・目標

評価項目	H30年度 自己評価
① 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
② 学校における職業教育の特色は設定しているか	4
③ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
④ 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4
⑤ 各学科の教育目標、育成人材等は、学科等に対応する業界のニーズに向けた方向づけがなされているか	4

自己評価
<p>本校は、学校教育法及び美容師法に基づき、美容師として必要な知識及び技能を習得させるとともに、社会人としての教養と近代的な感覚を会得させ、公衆衛生の向上に寄与できる美容師の養成を目的とする。（学則第1条）</p> <p>また、創立99年の日本屈指の歴史と伝統を兼ね備えた美容専門学校として、専門性の高い4つのコースで、幅広いフィールドで活躍できるスタイリストの育成を目標にしている。</p> <p>その根底には「歴史と伝統が築き上げた人のつながり」を財産とした実践的な教育がある。</p> <p>学校の特色については、パンフレット・HP・DMで広く公表すると共に、体験入学及び保護者説明会の開催等によりその周知に努めている。</p> <p>職業実践専門課程の認定を受け、熊本県内サロン等との産学提携を一層進めている。</p> <p>①最新技術や流行に合わせた技術を習得・・・企業と綿密の連携した実習・演習を実施            ②社会が求める魅力ある人材を育成・・・充実した教員研修により教育の質をさらにアップ            ③企業が求める人材育成のための実践的な教育・・・カリキュラムの編成・組み立てに企業等の意見を反映            ④最新の就職動向などの情報をいち早く取得・・・就職に対する意識向上を図る就職ゼミを実施            ⑤学習内容が改善でき、社会の流れのあった授業・・・企業等を参画して学校評価を実施</p> <p>より実践的な専門性の高い5つの教育の質を目指している。</p> <p>本年度は、パンフレットで九州美容専門学校への高校生の素朴な疑問、本音回答というページを作り3つの質問に答える形で学校の紹介を行っている</p> <p>質問① 学校生活について</p> <p>回答・・・とにかく楽しいイベントが多い学校            回答・・・コンテストは厳しい。だけど、楽しくスキルアップできる            回答・・・礼儀やマナー、みんなちゃんとしている。だから楽しめる</p> <p>質問② 美容の勉強について</p> <p>回答・・・就職に有利な資格が多く取れる学校            回答・・・国家試験に不安なく打ち込める            回答・・・前向きに取り組める秘訣は、美容師国家資格取得を学生たち全員が目指せること</p> <p>質問③ 学校の選択</p> <p>回答・・・将来を考えるなら絶対九美！全国で先輩たちがたくさん活躍している            回答・・・両親に進路のことで相談するとき、安心して話すことができた            回答・・・安心して勉強に集中できるよう学費面でも新しいサポート制度が充実など、高校生に安心してもらえるように配慮した。</p>

## (2) 学校運営

評価項目	H30年度 自己評価
① 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
② 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
③ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確に具現化したり、有効な機能化を図っているか	4
④ 人事、給与に関する規定等は整備されているか	4
⑤ 教育・財務等の組織整備など意思決定システムは、整備されているか	4
⑥ 業界や地域社会等に関するコンプライアンス体制が整備されているか	4
⑦ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
⑧ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

自己評価
<p>毎年3月に事業計画を策定し、学校運営、教育活動、就職活動、広報活動等の運営方針を提示している。</p> <p>具体的な指導内容、行事を年間スケジュールに位置づけ、数値目標等を詳細に掲げ、その執行体制を確保するための研修計画、教職員配置、役割分担等の明示を行った。</p> <p>近年の美容トレンドや技術のめまぐるしい変化に合わせた柔軟な対応、課題・問題の早期解決に努めている。</p> <p>平成24年に学校法人化を行ったことにより、財務の整備、人事、給与に関する規定等の整備を行っている。</p> <p>情報システム化については、学籍簿等の履修システムの導入を行い、円滑に機能している。</p> <p>携帯電話の発達を考慮し、平成26年4月より携帯サイトの構築を行いHPと共に様々な情報発信を可能にした。</p> <p>HPは、行事等の周知を図り、ブログでは行事や授業・検定・コンテスト等の内容の周知を図った。これらの情報発信により、タイムリーに学校の魅力を学生、保護者、地域住民、入学希望者を含む多くの人へ周知・認知を進める効果があった。</p> <p>休日や平日時間外・長期休暇時に学生から緊急で連絡を入れたいとき（事故や怪我等）のツールとして、緊急メールを作成した。（学生→校長 内容により職員に連絡）</p> <p>昨年、開始したツイッター・インスタグラムでは、学校の行事、学生の様子、オープンキャンパスの告知・報告等を発信した。</p> <p>高校生から学校へ直接のコメントや感想が寄せられたり、そのコメントや学校情報を他の友達に拡散したりするという動きが見られ、新たな情報発信ツールとして広報活動が充実してきた。</p> <p>フォロワー数は、両ツールとも500を超え、現在も九美ファンを増やしている。</p> <p>本年度、新たな戦略としてYouTubeチャンネル（九美チャンネル）を開始した。</p> <p>技術の紹介や学校行事の紹介等学生らしい動画を配信している。チャンネル登録者は、200を超え、現在も増加中である。</p> <p>専修学校設置基準におけるコンプライアンスは、常に遵守しているところであるが、業界・地域社会を交えたコンプライアンスについては今後の検討課題である。</p> <p>また、情報公開についてはHPを活用し、保護者や卒業生、企業へ向け情報発信を行っている。</p>

### (3) 教育活動

評価項目	H30年度 自己評価
① 教育理念に沿った教育課程の編成、実施方針等が策定されているか	4
② 教育理念、育成人材像等や業界のニーズを踏まえた学科の終業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
③ 学科等のカリキュラムは体系的に編集されているか	4
④ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発は実施されているか	4
⑤ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携を考慮したカリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
⑥ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
⑦ 授業評価に係る評価体制の確率、及び実施はなされているか	3
⑧ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
⑨ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
⑩ 資格取得に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
⑪ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
⑫ 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
⑬ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
⑭ 教員の能力開発のための研修等が行われているか	4

自己評価
<p>カリキュラムの編成は教育課程編成委員会の意見を活用し、学校内で行っている。</p> <p>企業の意見・要望を直接反映させる委員会における意見を、平成28年度のカリキュラム編成から、積極的に取り入れた。在学2年間という限られた期間で資格の取得及び人材育成を実施するための体系的でより効果的なカリキュラム編成を行っている。</p> <p>成績評価・進級卒業条件等は、学則で明記している。</p> <p>資格取得については、美容師国家試験の合格を最重要課題としている。</p> <p>平成29年に日本ヘアカラー協会（JHCA）の美容学校認定制度を導入し認定校となった。1年次にJHCA シングルスター検定（実技・筆記）を受験させ、就職先で即戦力として活躍できる実践的な技術の習得を目指している。</p> <p>本年は、担当職員がダブルスター検定を受験し合格した。本年は、トリプルスター検定を受験予定である。</p> <p>また、コースごとに検定試験を実施し、資格取得と同時に力量の向上を図っている。</p> <p>具体的内容は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トップスタイリストコース：SASSOON スクールシップ教育プログラムによる指導（カット・カラー・ブロー）              フォトコンテスト作品提出、メンズカット・セット              現役美容師のカラー講習（JHCA：日本ヘアカラー協会加入サロンによる）</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・メイク・ネイルコース : シュウウエムラ教育プログラム終了ディプロマ、IME 検定準 A 級。 JNA ジェルネイル初級検定・認定講師によるジェルネイル講習</li> <li>・ブライダルコース : ABC 協会ブライダルプランナー検定 2 級。 山野流着装初・中伝許状、奥伝許状 ヘアアレンジ講習会 (ストレートアイロンで作る波ウェーブ)</li> <li>・アイラッシュデザイナーコース : JLA 協会ジュニアアイデザイナー検定 ボディジュエリー・エアブラシを使ったヘアアート ヘアアレンジ講習会 (ストレートアイロンで作る波ウェーブ)</li> </ul> <p>各コースではそれぞれ目標とする資格取得を目指すため、企業との協力により最新技術の実習・演習を行っている。 各協会の認定校として、職員の認定講師資格取得・指導力の向上のための研修の充実を図っている。 教員・職員研修については、技術研修に止まらず、階層別・目的別研修を実施し職員の資質向上にも力を入れたい。 今後は、これら研修の体系化と教育研修規定の整備が課題である。 成績評価・進級卒業条件等は、学則で明記している。</p>
---

#### (4) 学修成果

評価項目	H30 年度 自己評価
① 就職率の向上が図られているか	4
② 資格取得率の向上が図られているか	4
③ 退学率の低減が図られているか	4
④ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
⑤ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

自己評価
<p>就職率については、関連企業の協力や学校内部でのキャリア教育の充実により、過去数十年にわたり就職希望者 100% という実績を上げている。</p> <p>各種資格取得、特に美容師国家試験の完全取得が、最大の職業要件であることから特に指導には重点を置いている。昨年の合格率は、91.7%であった。100%合格が課題である。</p> <p>退学は 1 年次の 1 学期に多くみられる。退学の要因は、学校生活不適應、進路選択の不適合等が多い。この時期を過ぎると退学者は、ごく少数になるが、経済的・精神的な理由による退学者が時折みられる。</p> <p>また、ここ数年の傾向であるが 2 年次での退学者が見られるようになった。H28 年度は 2 年次 3 学期に学期に退学する学生が 2 名、H29 年度は、2 年次 1 学期に退学する学生が 2 名いた。両者ともに進路変更による退学であった。</p> <p>それぞれの要因に対するの対応策を計画している。</p> <p>在校生の社会活動は十分に把握している。</p> <p>卒業生については、学校への OB 訪問が多く、その際に個別の聞き取りを行う、雑誌・HP 等で活躍している卒業生の情報を収集するなどして追跡を行っている。</p> <p>また、卒業生に講義やレクチャー、コンテストの審査員等の依頼も行い、卒業生のモチベーションの向上と同時に在校生の意欲の高揚も図っている。</p> <p>さらに、学校 HP 等でその成果等を公開するシステム作りを行う。</p>

## (5) 学生支援

評価項目	H30年度 自己評価
① 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
② 学生相談に関する体制は整備されているか	4
③ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
④ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
⑤ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
⑥ 学生の生活環境への支援は行われているか	4
⑦ 保護者と適切に連携しているか	4
⑧ 卒業生への支援体制はあるか	3
⑨ 社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4

自己評価
<p>進路・就職に関する支援体制は、1年次より計画的に実施している。</p> <p>卒業後、美容師を断念したり、離職したりする学生が増加する現状を踏まえてキャリア教育・実践的な職業教育の視点に立った教育が必要であるという認識のもと、対策として業界理解セミナー・職種理解セミナー等企業人事担当者・OB・OGを招聘、専門家の講義等を取り入れた職業の特性を学ぶ講義を実施している。</p> <p>1年次4月より、職業に対する価値観・重用感の理解を図るため、先輩美容師の具体的な経験に基づいた講義と授業に位置づけている。講話の講師はオーナー・店長・チーフ・スタイリスト・アシスタント等多様な人材を確保することで学生の進路の希望に対応できる配慮をした。これらは、夢の構築・目標の立て方・技術習得までの道のり・心の在り方等を学ぶことができるが、学生の意識との一体化を図る指導内容づくりはより一層の工夫・開発が課題である。</p> <p>平成29年度の求人数は800件を超え、就職率は平成30年3月末で100%となり、順調に推移している。</p> <p>各種学内説明会は、平成29年度は50件を超える企業の参加による学内説明会・ヘアショー・選考会が実施できた。</p> <p>キャリアサポート室を整備し、求人票の閲覧、資料の展示をしている。PCを使い、企業検索、資料請求のできる環境を確保している。また、一人一人の個別指導の充実を図り、より丁寧なケアをしている。</p> <p>学生相談は、各担当が、学期ごとに面談を行い、問題の早期発見・早期解決に努めている。学生の動向を全職員で見守り、問題を共有化する体制の整備が進んでいる</p> <p>経済的支援については、入学時に特待生推薦・指定校推薦などの学費免除を行う学費支援制度を行っている。また、報奨金制度を設け、学ぶ意欲の向上を目的としている。</p> <p>遠方から進学し、新たに一人暮らしを始める学生については就学と生活を支援する制度として支援金を支給している。(一人暮らし応援制度)</p> <p>健康管理は、毎年の健康診断を実施している。</p> <p>近隣との連携として献血・近隣行事への参加・近隣清掃等を実施しているが地域住民に好意的に受け入れられていると共に学生にも好評である。</p> <p>最近では、近隣小学生の夏祭りのヘアメイクボランティアや老人介護施設へのメイクボランティアなどを行い、学生の社会参加を促している。要請があればできる限り協力参加を行ってゆきたい。</p> <p>毎週金曜日の近隣の清掃活動は、定着化している。</p> <p>保護者については、学期ごとに学校行事の報告や試験結果の送付などを行っている。「遅刻・欠席・早退ゼロ運動」の実施により出欠確認の徹底を図ると共に、欠課時間数が多い学生、授業態度の怠慢な学生には、保護者面談を実施し、問題の共有化による早期解決を図ると共に、保護者との円滑な関係づくりを図っている。</p>

美容通信科では国家試験合格に向けて、きめ細かい指導を行っている。  
進学情報誌業者を介した出張授業等の活動も行っている。

## (6) 教育環境

評価項目	H30年度 自己評価
① 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	4
② 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
③ 防災に対する体制は整備されているか	4

自己評価
<p>教育設備・教室数は十分に整備されている。</p> <p>学内では、サロン現場を想定した相モデルでの実習を行う。</p> <p>インターンシップの実施により、職場訪問を実施し、美容室での美容師の仕事体験行うなどし、職業意識を涵養する。</p> <p>防災については、「緊急避難マニュアル」を整備し、それに沿った避難訓練を実施している。緊急に対応する体制の整備が行えている。本年度は、地震時の避難訓練も追加した。</p>

## (7) 学生の受け入れ募集

評価項目	H30年度 自己評価
① 学生募集活動は、適正に行われているか	4
② 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
③ 学納金は妥当なものとなっているか	4

自己評価
<p>学生募集活動は円滑に実施されているが、学生数の推移等のデータから更なる工夫改善が必要である。</p> <p>広報担当者は対象校及び担当者との人間関係を深め、誠意を持って対応することを念頭に意図的・実践的に具体的活動を実施してきた。このことにより対象学校から評価を得るに至っている。</p> <p>広報で得た信頼関係が具体的指導場面に連動する枠組みの作成や、対象校の詳細な現状を共有することにより教職員の相互理解を図る研修も今後実施したい。</p> <p>学納金については募集要項に明記している。</p>



## (8) 財務

評価項目	H30年度 自己評価
① 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
② 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
③ 財務について会計監査が適正に行われているか	4
④ 財務情報公開の体制整備はできているか	4

自己評価
<p>法人化に伴い、借入金の整備ができ、財務基盤は安定していたが、熊本地震の校舎被害に伴い、支出が増大した。地震による建物被害（壁の崩落、地震による雨漏り、ロッカー・空調設備・ボイラー・等）については、グループ補助金申請を平成28年8月に行った。平成29年3月に補助金交付決定をいただいたが、被害額が大きかったため、平成30年度決算は、大きな赤字を出してしまった。</p> <p>税理士の指導の下、予算計画・収支計画は妥当である。</p> <p>会計監査については適正に実施している。</p> <p>学校教育法の定める財務情報公開について準備を進めている。</p>

## (9) 法令等の遵守

評価項目	H30年度 自己評価
① 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
② 個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか	4
③ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
④ 自己評価結果を公開しているか	4

自己評価
<p>個人情報保護規定に基づき、個人情報取り扱い規定を整備している。</p> <p>個人情報の取り扱いについては、特に留意している。</p> <p>PCの持ち出しは禁止としている。</p> <p>WEBを使用した自己評価・学校関係者評価を平成29年度10月1日に公開した。</p>

## (10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	H30 年度 自己評価
① 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	3
② 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
③ 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

自己評価
地域貢献としては、地域の献血活動、近隣の清掃活動等を実施し、地域住民との円滑な関係の構築が図れている。 ボランティア活動は、学生の自主組織による活動を実施している。 ヘアショーやイベントのモデル、企画運営のスタッフとしてボランティア活動を行うこともある。 企業、美容室の美容技術講習会、美容用品商・美容組合の技術講習会、国家試験委員の打ち合わせ研修会等に学校を解放している。